

議会報告会報告書

開催日時	平成28年4月23日（土） 午後2時00分～3時30分	
開催場所	生涯学習センター	
出席議員	代表者	ねぎしかずこ
	報告者	山口道夫（予算、生環）、大村洋子（総務）、大野忠之（教福、100条）、本石篤志（都整、まち）、渡辺光一（観光）
	記録者	井坂直（パソコン操作：西郷宗範）
参加人数	15名	
報告内容	<p>（質問・回答）</p> <p>Q 横須賀警察署の跡地は、市としてどのように考えているのか。</p> <p>A 市としては購入しないと言った。今後は県とどのような協議をするか検討していく。</p> <p>Q 住民基本台帳の人口と新聞報道の人口数はちがうが、どちらが正しいか。</p> <p>A 行政としては住民基本台帳が基本となる。</p> <p>Q 資料に空き家を含めた住宅有効活用とあるが、新築マンションが増えると空き家も増えてしまうおそれもあるのでは。バランスをうまく取れたらいいと思うが。</p> <p>A 市民の皆さんのニーズと住環境の整合性については、今後も調整していきたい。</p> <p>（意見・要望等）</p> <p>国からの加速化交付金がもらえなかった事は残念だ。行政や議会を支える市民のバックアップが足りないのか。市民と議会と行政の関係がうまくいかないと、結果的に横須賀市が良くなるのではないのか。市民と議会のあいだで、例えば出前トークのような形でもっと身近な問題を話し合えるようなことはできないか。</p> <p>今回不採択となった事は、行政側の責任だけでなく議会としても今後はあってはならないし、国からの補助は受け取らないといけなく考える。市民の皆さんに議会と行政が重要視している課題を届けるように、議会側も努力しないといけなく事をすべての議員が共通認識として持っている。</p> <p>二元代表制のもと、議会と行政は切磋琢磨していくということだろうが、信頼関係が薄れているのではないのか。100条委員会は非常に民主的な形で進められており、素晴らしい。信頼関係が薄れることは、市民にとっても結果的に不利益だと思う。信頼関係を回復するにはどうすればいいのか考えてほしい。</p> <p>信頼関係をしっかり築き、議会と行政の両輪で市政運営をしていかなければならないという意味で、今回、100条調査特別委員会は設置された。議会も、市長・行政側と一緒に、まちづくりをしていかなければならないと思うが、最近、市政運営に関して不透明なことが多すぎる。市民の皆さんにとって、市長と議会がもう一度しっかりと信頼関係を築き、横須賀市のために頑張っていかなければならないと考える。</p> <p>Q 18歳以上の人に親しみのある、横須賀モアーズに投票所があるといいと思う。</p> <p>A 頂いた御意見は選挙管理委員会に伝えたい。</p> <p>議員から観光立市推進条例を作ったのはとても良い事だ。YRPや湘南国際村などを有効に使い、クリエイティブなものを作っていく形で市を豊かにしていく。議員が一体となり企業誘致など、専門的に考える特別委員会を作ることは難しいだろうか。</p> <p>A YRPにある先端技術を議会も活用し、市外へのPRに努めたい。</p> <p>集团的自衛権の行使や武力行使などになると、日米基地があるのでリスクが高くなると心配だ。平和的な話し合いによる解決ができたらい。安保関連法について賛成・反対の人がいるが、市として世論調査などしているのか。</p> <p>A さまざまなお考えがあると思う。そのような御意見があったという事で共通認識にしたい。市として国政問題に対してアンケートを取る事はしていない。</p> <p>Q 議会で安保関連法、廃案を求める意見書が出たと思うが。</p> <p>A 請願は不採択となった。議員はそれぞれ自分の考えをもっているが、この場で明らかにすることは難しい。事実のみ客観的に伝えたい。どのような議論がされたか市議会のホームページでご覧いただければと思う。</p>	

横須賀市議会議長 様

平成28年5月2日

上記のとおり報告します。

代表者 ねぎし かずこ